

第 26 回有機結晶シンポジウム開催報告

山形大学大学院理工学研究科

片桐 洋史

2017 年 11 月 3 日(金・祝)-5 日(日)の 3 日にわたって、山形大学工学部米沢キャンパス 4 号館大示範教室において、第 26 回有機結晶シンポジウムが開催されました。発表件数は招待講演 4 件、口頭発表 29 件、ポスター発表 66 件、参加者数は 152 名(一般 78 名、学生 74 名、懇親会 87 名)でした。地方での開催にも関わらず多くの方にご参加いただき、興味深い発表と活発な議論が行われました。

今回のシンポジウムは、初日の 9 時に開始して 3 日目のお昼に終わるようにプログラムを組みました。招待講演では、小林由佳先生(物材機構)、芥川智行先生(東北大多元研)、熊木治郎先生(山形大院有機)、土岐規仁先生(岩手大理工)より、有機結晶化学とその関連分野における最先端の研究をご紹介します。招待講演と口頭発表が行われた本会場は、余裕を持って座席数 500 名の会場に致しました。ポスター会場は、例年通り 2 日間 2 グループに分かれての発表でしたが、少し広めの教室を準備して 3 日間通してポスターを掲示していただきました。また、シンポジウム前日 11 月 2 日(木)午後 11 号館未来ホールにおいて第 3 回プレシンポジウムを開催し、80 名の方にご参加いただきました。プレシンポジウムでは、都築誠二先生(産総研)、植草秀裕先生(東京工業大)、増原陽人先生(山形大院理工)よりご講演をいただきました。

優秀講演賞と優秀ポスター賞は、11 月 5 日(日)の 8:30 から開催した審査会における厳正な審査の結果、下記の 7 名の方が受賞されました。第 24 回シンポジウムより、最優秀講演賞には *CrystEngComm Presentation Award* が併設されていますが、今回より最優秀ポスター賞にも *CrystEngComm Poster Award* が授与されることになりました。

この時期の米沢には珍しい秋晴れのもと初日を迎え、米沢らしい時折冷たい雨が混ざる曇り空の最終日となりました。3 日間にわたり参加者が同じ会場で講演を聴いて意見を交換するシンポジウムは日程的な困難さから今日では少なくなったように思います。日程に無理のない 2 日間開催への変化は自然な流れかもしれませんが、少し余裕のある場所とスケジュールで学術とじっくり向き合う贅沢な時間を共有する、そのようなシンポジウムを思い描きながら準備をいたしました。文化の日を含めた連休での開催ということもあり、シンポジウムだけでなく、米沢の歴史文化と食文化もまた愉しんでいただけたのであれば、実行委員としてこの上ない喜びです。

最後になりましたが、今回のシンポジウムの開催にあたり、部会役員および部会会員の皆様から貴重なご助言とご協力を賜りました。また、加藤科学振興会、米澤工業会より助成金をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

○最優秀講演賞 "CrystEngComm Presentation Award"

O-09 阿南静佳 (北大院総化) 「MOF の配位子として結晶中に固定したモノマーを用いたストキャステリック重合」

○優秀講演賞

O-11 尾崎仁亮 (JST-ERATO) 「電気刺激により電子伝導性と白色発光を発現するヨウ素内包カーボンナノリング」

O-21 西村涼 (龍谷大) 「ハスの葉のダブルラフネス構造を模倣したジアリールエテン微結晶膜の構造制御と撥水性」

○最優秀ポスター賞 "CrystEngComm Poster Award"

P-58 杉山晴紀 (東工大院理工) 「多種の外部刺激に応答するクロミック金属錯体の色変化機構の解明」

○優秀ポスター賞

P-05 伊藤雅季 (東理大理) 「6つのイミダゾールが配位した Ru(III)錯体の水素結合型結晶の構造と性質」

P-26 森本晃平 (阪市大院工) 「ジアリールエテン単結晶の光誘起複屈折変化」

P-36 寺沢有果菜 (早大院先進) 「アラニン分子による硫酸トリグリシン結晶のキラリティ制御」



本会場



ポスター会場



授賞式



プレゼンポジウム